

応急手当講習受講報告

日時：令和5年8月31日(木) 15:00～16:00

参加者：稲村建設(株)社員(9名)、関係協力会社(3名)

建設現場では建設機械や施工中の構造物等の周りなど安全に注意をしていますが、いつどんな事故や災害が起こるかはわかりません。

また、ここ数年気温上昇に伴い、外での作業は今までにない高温での作業が多くなってきており、熱中症対策を行い現場作業に従事しております。

しかし、いつ、どこで、何が原因で人命救助の場面に遭遇するか分かりません。心臓と呼吸が止まってから時間の経過とともに救命の可能性は急激に低下すると言われていています。

そんな時、心肺蘇生やAED(自動体外式除細動器)などの応急手当知識を知っていれば、救命の可能性はおおよそ4倍になることが分かっています。

今回、稲村建設では建設業に従事している会社として事故及び災害時等に地域への援助活動に積極的に協力するため、応急手当講習を前橋市消防局中央消防署へ申し込み、中央消防署の協力を得て応急手当講習を職員及び関係施工業者と共に受講いたしました。

前橋市の消防署では、119番通報があつてから救急車が現場に駆けつけるまでに現在は平均して約6分かかります。(全国平均約9分)事故などにあった人が心停止になったとき、その人を助けるためには、そばに居合わせた人が応急手当を行うことが重要となります。

・受講状況

前橋市消防局中央消防署の協力を得て会社の会議室で受講しました。



救急救命士による実技指導状況

・心配停止の確認訓練

①意識の確認

②大声で助けを呼ぶ及び119番通報、AEDの手配をする。

③呼吸の確認

ここでは、心停止の早期認識と通報の訓練で、119番通報及びAEDの手配など一次救命措置を行うための重要な役割を果たしています。

・心配停止の確認訓練

- ①意識の確認
- ②大声で助けを呼ぶ及び119番通報、
A E Dの手配をする。
- ③呼吸の確認



心配蘇生法

- ・胸骨圧迫訓練

心肺蘇生とは胸を強く圧迫する「胸骨圧迫」と、口から肺に息を吹き込む「人工呼吸」によって、止まってしまった心臓と呼吸器の動きを助ける方法です。

心配蘇生法

- ・胸骨圧迫訓練



A E D使用方法

- ・A E D取扱い訓練

A E Dは電気ショックを行うための機器で、心室細動による心停止かどうかをコンピューターにより自動的に調べて、電気ショックが必要かどうか判断し、音声メッセージにより電気ショックが必要かについて指示してくれる機器です。

